平成二十二年六月・第二号

定例総会及び五月の活動報告

京の街角 姉小路界隈ヨリ

姉小路まちづくり通信

1. 定例総会のご報告

先月１６日の日曜日に、中京酒販売組合の３階会議室で「姉小路界隈を考える会」の定例総会が行われました。総会は、約２０名の会員の方々に参加して頂きましてつつがなく終了致しました。昨年度の活動報告に続いて会計報告を行い、また次年度の活動予定と予算案に対しての皆様の承認を受けることができまして、有難く思っております。

また総会の後には、恒例となりました「人間マップシリーズ」として、文化元年(1804)より御菓子づくりを始めて２０６年の御菓子司「亀末廣」の７代目の店主でおられる吉田孝洋氏により、ご講話を頂戴致しました。こちらも盛況のなか、無事に終了致しましたことをご報告申し上げます。

吉田氏の講話の様子

2. ＪＵＤＩセミナーのご報告

同じく先月１６日の日曜日の総会後には、室町通二条に位置する「さいりん館」で「ＪＵＤＩ(都市環境デザイン会議)関西ブロック」のメンバーによる姉小路界隈における景観スタディの報告会が開催されました。こちらには、総会に続いて約１０名の会員の皆様に参加して頂き、また市内外からも多くの参加者が集まり、総勢３０名程と非常に盛り上がりをみせました。

この報告会では、「姉小路界隈を考える会」が積み上げてきた街なみ環境整備事業の事例紹介だけでなく、彼らと月１回重ねてきたワークショップで検討された景観シミュレーションやコンピューターによる色彩分析、そして灯りのデザインの学生コンペなどの成果が紹介されました。

終了後に同所で行われた懇親会にも、会員の多くを含む約２０名が参加、姉小路を肴にした話に花が咲き、とても充実した会となりました。

会員の皆様との記念撮影風景

3. 通り名サインのデザイン講評会のご報告

総会前の先月７日の金曜日には、「ＪＵＤＩ(都市環境デザイン会議)関西ブロック」のメンバーとして報告会で色彩分析の発表もされた、京都市立芸術大学の藤本英子准教授による学生課題の講評会が姉小路画廊で開催されました。同大学のデザイン科２回生による街並みに配慮した「通り名サイン」として、通り名を書いた看板や置物など２２種類が集まりました。

竹を直角に編み南北の通り名を示す作品や、見る角度で文字が浮かび上がる作品などの実用的なものだけでなく、子供にも判り易い様にひらがなで大きく書かれた作品や、簾に姉小路の文字を毛糸で編みこんだ電柱に巻きつける作品など独自性がありユニークなものも見られました。

同会ではこれらのサインの設置にむけて行政にも協力を求め、若者と地域・行政の３者が協力して姉小路の街並みを良くしていく取り組みを今後も続けていきたいと考えております。

講評会終了後の記念撮影風景

昨月より始めました「姉小路まちづくり通信」は、これから毎月１日を発行日として皆様へと届けさせて頂く事になります。内容は先月の活動報告や今月の活動紹介が主なものとなります。

今年も地蔵盆にむけて行灯の準備が必要な時期が近づいて参りましたが、こちらは詳細が決まり次第追って報告致します。また今月は１５日の水曜日１９時より中京酒販組合の３階会議室で、界隈の皆様を交えての活動会議を開催致しますので、ふるってご参加をお願い致します。

（事務局長：谷口親平）